

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	心理臨床センターは、明治大学大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の学生の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、修了生を対象とした卒業教育にも力をいれ、現場で活躍できる臨床心理士を育成する教育活動を行っている。また同時に、臨床心理学的諸問題にかかわる相談・援助活動及び調査研究を行って社会貢献を果たすことにより、本大学の教育・研究に貢献することを目的としている。なお、心理臨床センター規程において理念・目的を定めている。					
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	相談活動や院生の実習実績については、大学から選任された教員によって構成されている運営委員会において定期的に報告と審議が行われており、厳密な検証がなされている。	センターの運営について、他学部教員などの多角的見地からの審議を行うことで、客観的な検証が行われている。	運営委員は2年任期であり、2016年度は委員の交代があった。毎回交代時には検証の根拠となる組織や活動についての基本的な理解を求めることが必要となる。		2018年度は運営委員の交代があり、センターの組織や活動について理解が進むよう、資料などの工夫を行い、運営委員会やそれ以外の機会にも配布して説明していく。	

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	心理臨床センターは、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の学生の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、修了生を対象とした卒業教育にも力をいれ、現場で活躍できる臨床心理士の育成を図っている。 運営組織としては、センター長、副センター長2名、学内運営委員15名によって運営委員会が組織されている。センターの実務的運営については、センター長、兼任相談員（大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修担当の専任教員）7名、専門相談員5名（専任職員1名、特別嘱託4名）によって構成される担当者会議で検討されている。 心理臨床センターの事務は、文学部事務室が担当し、専任の相談員1名も運営事務を担っている。心理臨床センター専従として、短期嘱託職員が3名（延べ1名分）がセンター来談者の受付事務を担当している。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	運営委員会担当者会議、において教育研究組織の適切性について検討を行っている。	相談の実務に携わる担当者会議で作成・検討されたセンターの運営案について、他学部教員で構成された運営委員会に置いて多角的見地からの審議を行うことで、客観的な検証が行うことができている。	運営委員は2年任期であり、2016年度は委員の交代があった。毎回交代時には検証の根拠となる組織や活動についての基本的な理解を求めることが必要となる。	2018年度は運営委員の交代がある予定であり、センターの組織や活動について理解が進むよう、資料などの工夫を行い、運営委員会やそれ以外の機会にも配布して説明していく。	

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか						
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～4000字程度】	<p>文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修前期博士課程、後期博士課程の学生の臨床心理実習については、学生が研修相談員として専門相談員の初回面接の陪席、専門相談員の指導を受けながら実際の個人心理面接及び心理検査の担当を行っている。</p> <p>2016年度は、初回面接の陪席は72回(新規申込79件中)と開設以来最も多い回数なった(表4(4)-2)。センター全体の個別心理面接回数が3,269回と前年度より200回減少し(表4(4)-1)、学生の心理面接及び心理検査の担当回数は978回と前年度より55回減少したが(表4(4)-2)、年間回数は3000回以上を維持しており、学生の担当についての承諾が得られた割合も30%を維持し、学生一人当たりの担当数の減少は最小限に留められた。</p> <p>さらに、2015年度のC地区跡地整備計画の中で研修室が設置されたことにより、カンファレンスや実習記録を行う十分なスペースが整備され、これまでのカンファレンスに加え、スタッフの専門性を生かした認知行動療法や心理検査法の研修会を開催するなど、学生の研修活動の充実を図ることができた。</p> <p>また、修了生も研修相談員として受け入れたり、修了生を対象とした事例検討会を行うなど、卒業教育にも力を注ぎ、修了生の臨床心理士資格取得者による「明治大学臨床心理士会」事務局をセンターに置くことにより、臨床現場で活躍する修了生と学生との交流を図ることができている。</p> <p>加えて、順天堂大学との包括協定に基づき、順天堂大学医学部精神医学教室との連携が2016年度より開始され、その中で2017年7月より順天堂大学側の症例検討会に博士後期課程の学生が継続的な参加を開始、学生に対する医学的な教育の機会が増えた。</p> <p>これらの臨床実習の成果については、臨床心理士資格試験に於いて、2016年度は受験者8名中7名が合格し、全国平均63%を大きく上回った合格率となったことや、これまでに修了生88名中87名が資格取得と高い水準を保っていることから裏付けられている。さらに、大学院志願者志願者は毎年12～14倍となっており、心理臨床センターにおける学生の臨床実習の充実ぶりが大学院の選択要因になっていることを示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初回面接の陪席や、心理面接や心理検査の担当など充実した臨床実習を行うことができた。 ・学生に対して、カンファレンス時間の拡充に加え、専門的な研修会開催など学生の研修活動が充実した。 ・修了生に対する卒業教育や明治大学臨床心理士会との連携は、校友と学生との交流につながり、学生の教育に寄与している。 ・順天堂大学症例検討会への参加により、博士後期課程学生に対する医学的な教育を取入れることができた。 ・臨床実習の充実により、臨床心理士資格試験では、2016年度は受験者8名中7名が合格し、全国平均63%を大きく上回った合格率となり、これまでに修了生88名中87名が資格を取得と高い実績を上げている。 ・臨床実習の充実やそれによる臨床心理士合格の高さは、大学院志願者志願者の多さ(毎年12～14倍)につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規申込数、個別心理面接回数が減少し、その影響で学生の担当数がやや減少した。理由としては、紹介の多かった医療機関の閉鎖や、2015年度拡張工事による新規受付休止期間があった影響が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスについて時間の拡充や実施方法の再検討などを行って充実を図ることに加え、専門的な研修会の機会を増やして研修活動をさらに充実させていく。 ・順天堂大学との連携による学生への医学的な教育の機会を増やして、症例検討会だけでなく実習の受入れや相談者の紹介などの交流を図っていく。 ・明治大学臨床心理士会(校友)との連携を強化して、共催の研究会などを企画していく 	<p>学生の担当数を1人週2回、年間1,200回を目指す。そのためには、個別心理面接回数を3600回まで増やす必要がある。</p> <p>方策として、以下が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の医療機関、私立学校へのリーフレットの送付等の広報活動を行う。 ・明治大学臨床心理士会共催により、外部専門家を対象とした研修会などを企画し、その中で広報活動を行っている。 ・順天堂大学との連携の中で、相談者の相互紹介を行えるよう、紹介内容や方法について協議していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標回数3,600回を達成させた後は、カンファレンスや研修の充実など質の向上に重点を置いていく。 ・明治大学臨床心理士会との共催の研修会を継続的に進めるよう計画していく。

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか					
a ●方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	<p>心理面接や検査に適した施設・設備を整備することにより、心理相談の効果を上げることができる。さらには、学生が整備された環境の中で臨床実習を行うことにより、学生に対して質の高い教育を行うことができる。</p> <p>2015年9月にC地区跡地整備計画の中で心理面接室1室、心理検査専用の部屋1室、研修相談員のための研修室が増設された。</p> <p>これにより、個別心理面接を行うための環境としては、心理面接室が4室、プレイルームが2室、心理検査室が1室となり、相談者の希望が多い曜日や時間帯は面接室不足のために申込を断らざるを得なかったり、面接室を心理検査室として代用せざるをえないというこれまでの課題が解決された。</p> <p>また、これまで学生が臨床実習記録を作成したり、カンファレンスを行ったりするスペースが不足し、スタッフルームを定員超過ながら使用して面接業務への支障も出ていたが、研修室が増設されたことにより、上記課題が解決され、学生の研修に適した環境が整備された。</p> <p>しかし、集団療法を行うための専用の部屋については、C地区跡地整備計画の中で検討されているものの、未だ実現しておらず、毎回会議室などを借りるなど心理的に十分な安定感の得られない環境で集団療法を行っている。集団療法は、学生が卒業後に臨床現場で携わることの多い業務であり、集団療法の研修を行う環境が整備されることは教育上も重要である。</p> <p>さらに、職員や学生の安全のため受付及び各面接室の防犯ブザー及び各部屋からの連絡を受付で確認するための電光ボードを受付に設置している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 心理相談を行うための条件が整った施設があり、学生の臨床実習をするための環境が整備されている。 研修室の設置により、学生の研修の環境が整い、研修の機会も増やすことができた。 	<p>集団療法室の設置が計画されているが、一日も早い実現が必要である。</p>		<p>集団療法室の設置が実現するよう関係部署と調整していく。</p> <p>集団療法室が設置された後は、集団療法室を生かし、発達障害やひきこもりの支援、復職支援など社会的課題に対応するような事業を計画していく。</p>
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか					
a ●学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制を備えているか。 ●教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	<p>学生が臨床実習記録を作成したり、カンファレンスを行ったりする研修室の設置は、日本臨床心理士資格認定協会が第1種指定校の条件として求めているものであり、これについては2015年度に研修室が増設されたことで整備された。研修室設置に当たり、研修室での個人情報の取り扱いや使用時間などについて担当者会議において内規を定め、年度初めに学生に研修室の使用法の周知を図るためのガイダンスを行った。</p> <p>面接室やプレイルームの設備・備品については、職員や学生が定期的に点検・整備を行ったり、観葉植物の手入れなど行ったり、相談に必要な備品や消耗品を補充するなどして、相談に相応しい環境を整えている。また、この作業自体が相談環境を学ぶこととなるため、臨床実習の一環としても取り入れられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修室の整備により、学生の研修環境が整備され、研修の機会も増えた。 研修室の使用について内規を定め、学生に周知を図り、それに基づいた使用がなされている。 面接室の整備は、学生の臨床実習の一環にもなっている。 	<p>面接室やプレイルームの設備・備品を整えるための予算が必要である。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 面接室やプレイルームの設備・備品を整えるための予算を年度計画で策定し、関係部署と調整する。 研修室が内規に基づいて使用されるよう、ガイダンスを定期的に行う。

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
a ○心理臨床センターの社会サービス活動、社会への還元状況 ※加えて、受講者アンケートや外部評価委員会による評価など検証の仕組みがあれば追記してください。根拠資料を検討ください。	<p>心理臨床センターは、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、臨床心理学的諸問題にかかわる相談・援助活動によって社会貢献を図っている。</p> <p>センターにおける心理相談は、兼任相談員（大学院文学研究科臨床人間学専攻専任教員）7名、専門相談員5名（専任職員1名、特別嘱託4名）によって行われている。2013年度から、個人心理面接は年間3,000回以上を維持し（表4(4)-1）、相談料収入も10,000,000円以上を維持しているが（表4(4)-3）、2016年度は面接回数が3269回と前年度より約200回減少し、それに伴い相談料収入もやや減収となった。しかし、個別心理面接を年間3,000回以上行うという高い水準の相談活動を維持していることは、地域に開かれた心理相談機関として大学の持つ臨床心理学の知見を社会に還元し、社会貢献を図っているといえる。</p> <p>また、近隣の大学病院を始めとした医療機関や外部の専門機関からの紹介で訪れる来談者が多く、これは外部機関からの評価の高さを示しており、センターの社会的認知、地域におけるネットワークの位置づけが進んでいることを示している。</p> <p>さらに、2015年12月に結ばれた順天堂大学との包括協定に基づき、2016年度より順天堂大学精神医学教室との連携が開始されたことにより、地域専門機関とのより緊密なネットワークの構築を目指すことが可能となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面接回数は3,000回以上を維持しており、外部専門機関からの紹介が多く、地域に開かれた心理相談室として認識、評価されている。 ・順天堂大学との連携により、相談事例について直接話し合うなど、緊密なネットワークが築けるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規申込数、個別心理面接回数が減少し、その影響で学生の担当数が減少した。理由としては、紹介の多かった医療機関の閉鎖や、2015年度拡張工事による新規受付休止期間があった影響が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動の内容が充実するようカンファレンス体制を強化していく。 ・順天堂大学との連携を進展させ、相談者の相互紹介や合同検討会の実施など計画していく。 	<p>個別心理面接について、目標面接回数3600回を目指す。</p> <p>方策として、以下が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の医療機関、私立学校へのリーフレットの送付等の広報活動を行う。 ・明治大学臨床心理学会共催により、外部専門家を対象とした研修会などを企画し、その中で広報活動を行っていく。 ・順天堂大学との連携の中で、相談者の相互紹介を行えるよう、紹介内容や方法について協議していく。 	
	<p>個別の相談だけでなく、集団療法として、小学校、中学、高校教員対象の2グループ、外部の心理援助職対象のサイコドラマスクール、児童福祉施設職員対象のグループを実施し、2016年度からはスクールカウンセラーを対象としたグループも開始した。</p> <p>学校教員のメンタルヘルスは近年たいへん悪化しており、教員を対象とした集団療法を行い、加えて、スクールカウンセラーへの支援も行うことは、学校教育に対して臨床心理学的知見を還元する取り組みである。さらに、児童福祉施設職員への援助は、近年児童虐待等の問題が大きくなる中で、その支援体制づくりの整備や支援者のスキルアップに寄与することは、社会的課題に対する重要な取り組みと言える。このように、一般の相談者の相談のみならず、臨床心理学的知見を外部の専門家に対して還元していくことは、心理臨床センターの目的の一つである社会貢献に資する取り組みである。</p> <p>さらに、修了生によって組織された明治大学臨床心理士会との共催により、会員を対象とした研修会を毎年実施している。2015年度は外部専門家を対象とした研修会も実施したが、2016年度は会員対象の研修会のみの実施となった。</p> <p>心理臨床センターにおける学生の臨床心理実習の充実ぶりは大学院志願者の重要な選択要因となり、志願者は毎年12~14倍となっている。社会的貢献の点でも、大学教育的観点からも、センターは本学の特色ある機関と認知されつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題に取り組む集団療法を実施している。 ・校友との連携による研修会を実施している。 ・臨床実習の充実とその成果（臨床心理士合格率）により志願者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療法専用の部屋がなく、現在は心理的に十分な安定感を得られない環境で実施している。集団療法室の設置が計画されているが、一日も早い実現が必要である。 ・明治大学臨床心理士会と共催の研修会は、2016年度は会員対象の研修会のみの実施となった。継続的に実施するためには、人員や予算が不足している。 		<p>集団療法室の設置・整備のため大学、他部署と調整を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団療法やセミナーの開催のための人員を年度計画で策定、関係部署と調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療法室設置後は、これまでのものに加えて、心の問題についての社会的課題（発達障害やひきこもりなど）の集団療法プログラムを計画していく。 ・明治大学臨床心理士会との共催で外部専門家や地域を対象としたセミナーを計画していく。

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画										
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述									
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>														
<p>(1) 点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</p>														
<p>a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】</p>	<p>自己点検・評価の項目について担当者会議で協議を行い、その内容について運営委員会において検討を行っている。その改善策についても検討し、年度計画等に活かすことで、自己点検・評価を改革・改善につなげるシステムを確立している。</p> <p>さらに、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修は日本臨床心理士認定協会第1種指定大学院であり、センターはその臨床実習機関として位置づけられており、認定協会により6年ごとに指定継続審査及び3年ごとに実地視察が行われている。2010年に実地視察、2012年度には指定継続検査が行われたが、この評価も学内の検討を促す形で活用されている。</p> <p>評価指標の一つに「同一の関係機関(病院等)から紹介される来談者の率」を他機関(利用者)からの信頼度・評価指標として、相談担当者会議において年度ごとに再紹介率の増減を基に現状分析や改善点の検討を行っている(表4(4)-5)。</p> <p>※① 評価に関する委員会等の設置(名称、メンバー、年間開催回数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>委員会等の名称</th> <th>主なメンバー、人数</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心理臨床センター自己点検・評価委員会</td> <td>担当者会議が兼務している</td> <td>隔週月曜日</td> </tr> <tr> <td>外部評価委員会</td> <td>運営委員会が兼務している</td> <td>2016年6月3日、2017年3月3日</td> </tr> </tbody> </table>	委員会等の名称	主なメンバー、人数	開催日	心理臨床センター自己点検・評価委員会	担当者会議が兼務している	隔週月曜日	外部評価委員会	運営委員会が兼務している	2016年6月3日、2017年3月3日				
委員会等の名称	主なメンバー、人数	開催日												
心理臨床センター自己点検・評価委員会	担当者会議が兼務している	隔週月曜日												
外部評価委員会	運営委員会が兼務している	2016年6月3日、2017年3月3日												
<p>(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか</p>														
<p>a ●PDCAサイクルを回すための、Check(点検・評価)およびAction(改善)の具体的内容・工夫</p> <p><参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する></p> <p>①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など</p>	<p>自己点検・評価報告書について、専門的な知識をもつ職員の補充、院生の研修環境、社会連携などの課題が担当者会議で協議され、運営委員会で検討を行い報告書をまとめた。運営委員会では、これら課題に対して、人員の充実、集団療法室の整備のように2017年度長・中期計画、単年度計画に記載し、計画的に改善を図ることにした。</p> <p>この他、心理臨床センターの活動状況は、来談者数、最終数及び最終時の状態(改善につながったか否か)によって客観的に評価することが可能であり、来談者数については様々な機会に学内外に公表している。また、さらに詳しいデータを毎年度発行される紀要に掲載している。また、来談者に評価を求めることは、心理相談の性質上困難なため実施していない。</p> <p>心理臨床センターに来談者を紹介する精神科クリニックなどの他機関が次々と現れていることも外部からの高い評価と捉えることができ、社会的な認知、地域におけるネットワークへの位置づけが次第に進んでいる。心理臨床センターにおける学生の臨床心理実習の充実が志願者の大学院選択の際の重要な要因となり、志願者は毎年12~14倍となっている。社会的貢献の点でも、大学教育的観点からも、センターは本学の特色ある機関と認知されつつある。</p>	<p>・センターの活動状況は、来談者数など、客観的な評価しやすいデータの形で学事記録やセンター紀要において公表されている。</p> <p>・日本臨床心理士認定協会による2010年に実地視察ではA評価と高い評価を得たが、同時に改善点も指摘された。それをもとに、年度計画等で改善を図り、2015年度に院生研修室を設置することができ、外部評価における指摘が、センターの実情に対する大学の理解を促進した。</p>	<p>・今後予定されている日本臨床心理士認定協会による実地視察に向け、前回指摘の改善点のうちまだ改善されていない「来談者の動線」について改善する必要がある。</p>	<p>・来談者の動線について、年度計画で策定すると同時に関係部署と調整して改善していく。</p>										

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

表4(4)-1 個人心理面接 年間面接回数

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
面接回数	250	1405	1823	2023	2532	2456	2417	2652

年度	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
面接回数	2811	3014	3403	3498	3269

表4(4)-2 大学院生臨床実習状況

2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年		2011年	
陪席	担当	陪席	担当	陪席	担当	陪席	陪席	担当	担当	陪席	担当	陪席	担当
18	183	53	377	35	317	63	18	46	744	32	626	48	761

2012年		2013年		2014年		2015年		2016年	
陪席	担当	陪席	担当	陪席	担当	陪席	担当	陪席	担当
62	827	58	828	62	862	50	1033	72	978

表4(4)-3 相談料収入

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
相談料	976,450	4,852,250	6,872,000	7,037,350	8,683,906	8,064,900	8,418,250	8,764,850

年度	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
相談料	9,567,850	10,401,000	11,375,060	11,750,000	11,101,500

表4(4)-4 臨床心理士資格試験合格者数(2007年度～2016年度)

年度	修了者数	受験者数	合格者数	合格率	合格率全国平均
2007	11	11	9	82%	69%
2008	9	11	11	100%	66%
2009	9	9	7	78%	62%
2010	7	9	9	100%	61%
2011	7	6	5	83%	61%
2012	9	11	11	100%	59%
2013	10	10	9	90%	62%
2014	10	11	10	91%	60%
2015	9	10	10	100%	62%
2016	8	8	7	88%	63%
計	89	96	88	99%	

表4(4)-5 個人面接紹介元

来談経路		件数	計
専門機関	医療機関	86	130
	スクールカウンセラー	21	
	福祉関係機関	9	
	その他相談機関	14	
知人	知人・家族	49	49
学内	スタッフ	11	13
	学内関係者	2	
広報	ホームページ	46	56
	広告・看板	10	
その他	学校等	8	15
	再来	7	
総計		263	263

2016年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

表(4)-6 集団療法 年間参加人数

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
教員サポート・グループ	64	76	70	54	26	70	68	43
教員コンサルテーション	32	146	117	74	51	70	68	55
サイコドラマ・グループ			172	189	186	242	235	232
施設心理職員グループSV								28
施設職員コンサルテーション								22
スクールカウンセラーサポート・グループ								
計	96	222	359	317	263	382	371	380

年度	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
教員サポート・グループ	87	44	34	39	51
教員コンサルテーション	56	27	26	32	12
サイコドラマ・グループ	188	266		254	177
施設心理職員グループSV	70	38	19	27	46
施設職員コンサルテーション	33	23	35	56	
スクールカウンセラーサポート・グループ					11
計	434	398	114	403	297